

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000020	事業の開始年月日	平成18年6月1日	
		指定年月日	平成18年6月1日	
法人名	医療法人社団 東華会			
事業所名	サリューブルとつか			
所在地	(〒245-0065) 神奈川県横浜市戸塚区東俣野町927-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成26年3月1日	評価結果 市町村受理日	平成26年5月26日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・サリューブルとつかの基本理念「明るい笑顔、元気な笑顔、やさしい笑顔」を毎朝職員は確認し合い、心と心の通い合う笑顔あふれる支援を目指しています。</p> <p>・年齢はばのある職員の定着率も徐々に上がってきており、チームケアに取り組んでいます。</p> <p>・昨年は3名のご利用者を看取らせていただき、職員により経験と介護職としての自信につながったと思っています。</p> <p>・活気あるグループホームであり、ご家族のいらっしゃらないご利用者には特に家庭生活に近い温かさを保つ事を日々心がけ、ご利用者に寄り添い、安全で安心出来るグループホームを目指しています。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年3月28日	評価機関 評価決定日	平成26年5月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇理念をふまえた利用者主体の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所の理念を実践につなげるため、フロアごとに職員間で話し合い「利用者様が笑顔でいられるホーム」「喜び、幸せ、ありがとうにつながるチームケア」を目標に掲げ、利用者一人ひとりに寄り添って思いを受けとめ、利用者個々に応じた個別ケアを行っている。 ・玄関、フロア間は施錠せず、1、2階の利用者が自由に行き来し、囲碁や将棋に興じたり和やかに花札、ゲームや談笑を楽しんでいる。活気があり笑顔があふれ、明るい大家族の雰囲気となっている。 <p>◇利用者と家族が安心できる医療体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月2回の協力医の往診、医療連携による24時間対応と週1回の訪問看護師による健康管理と訪問歯科の治療体制は、利用者や家族に安心感を与えている。 ・重度化した場合、家族、医師、看護師、職員が連携し意向を確認しながら方針の共有をはかり、安心して納得のできる最期を迎えられるような体制ができており、看取りの実績もある。 <p>【事業所が工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生面の観点から洗濯機を2台用意し、台所関係と一般の洗濯物を分け処理している。 ・避難訓練時に、利用者は蛍光色のたすきをかけて参加し、夜間でも利用者の所在が一目で分かるようにしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	サリューブルとつか
ユニット名	1Fユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価（1Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に「明るい笑顔、元気な笑顔、優しい笑顔」の理念を全員で復唱し、施設内同様、外出先でも理念をふまえ、実践出来るようにしています。	・事業所の理念を実践につなげるため、フロアごとに職員間で話し合い「喜び、幸せ、ありがとうにつながるチームケア」「利用者様が笑顔でいられるホーム」を目標とした。 ・毎朝、理念と目標を唱和・確認して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災訓練や運営推進会議へ地域の方々に参加をいただいている事や地域の行事へのお誘いには出来るだけ、ご利用者、職員と共に参加をしています。 地域にある床屋や商店を利用しています。	・自治会に加入し、防災訓練、盆踊り、祭りや筍掘りに参加し、地域の一員として活動している。 ・事業所主催の夏祭り、餅つき、防災訓練などには近隣住民を招待し交流を図っている。 ・傾聴や音楽療法のボランティアが訪れている。	・自治会に加入し、地域の一員として良く活動していますが、隣近所の住民との交流を深められると更に良いと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の行事（夏祭り、餅つき、防災訓練など）に地域の方々をご招待したり、またご協力をお願いし、施設を理解していただけるようにしています。 昨年施設の行事に、子供連れの若いお母さん方が多数参加してくるようになりました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在2ヶ月に1回のペースで運営推進会議を実施し、活動報告を行い、そこで出されたご意見、指摘事項についてはよく話し合い改善を図り、サービス向上に努めています。 特に施設内での事故については詳細に報告をしています。	・2か月に一度の運営推進会議で、事業所の活動報告後、意見交換を行っている。 ・衛生面、安全面から洗面所の蛇口を自動式への変更、家族が事業所の草むしりや窓拭きを手伝うなどの意見や申し出があり検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は残念ながら密にとれているとは言えない状況です。 地域包括支援センターには、徘徊のあるご利用者の相談をし、ご意見をいただいたりしています。 市町村主催の研修には、出来るだけ参加しています。	・戸塚区の依頼を受け、地域包括センターとも連携しながら生活困難者を受け入れている。 ・地域包括センターとの連絡を密にし、利用者の支援方法や家族への対応などを相談している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価（1Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外出願望の大変強いご利用者が入居されているが、玄関・居室・フロア入り口すべて日中はフリーとしています。ご家族、職員には説明し理解してもらい、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	・職員は研修とマニュアルで身体拘束をしないケアと虐待防止について学んでいる。 ・管理者は職員の不適切な言動に気づいたらその都度注意している。 ・玄関とユニット間は夜間を除き施錠せず、拘束のない暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束ゼロの介護をしています。ユニット会議等でも、拘束や虐待について話し合い、資料を配ったりして、職員が理解し実践出来るように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前ご利用者様の中に成年後見人が付いている方がおられたので権利擁護や成年後見人制度の理解があります。 その際ご家族や成年後見人とは連携を密とし、問題解決等に努めました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際には、重要事項説明書をはじめ、出来るだけ詳細にご説明しています。 ご家族から聞かれたことなどは、出来る限りご家族が納得できるまでご説明するように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や運営推進会議などで、苦情や要望を伺うように努めています。 またご家族が職員に何でも気軽に相談出来るように、ご家族とはコミュニケーションをとっています。	・家族の意見や要望は来訪時や運営推進会議、電話連絡時などで聞き、ケアに生かしている。 ・事業所の出来事を毎月家族に配付する「サリュールとつか」に利用者個人の近況を書き加えて欲しいとの要望に対応した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価（1Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は全職員に対して、年1回の意向調査を実施して意見・要望・提案を聞く機会を設けています。 各ユニット会議などを活用し、話し合いの機会をもち、意見や提案を聞く機会を設けている	・管理者はユニット会議や毎日の申し送り、法人は年に一度実施するアンケートで職員の意見・要望・提案を把握し、運営に反映している。 ・職員の提案で、昼間行っていたフローリングの水拭きは利用者が滑る可能性があり、夜勤者の業務に変更して事故防止に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、最低でも年1回、あるいは複数回、職員から意見・要望を聞く機会を設けて、働きやすい職場作りを図っています。 就業規則は全職員が、いつでも閲覧出来るように書庫の中に設置しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1ヶ月1回の内部研修への参加や外部研修にも出来る範囲で参加をしています。 またユニット会議を利用しての、実技の指導などに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同社内のグループホームやデイサービス、老健の職員との交流・研修を計画的に行い、サービスの質の向上に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者がどんなことであっても話しやすく、相談しやすい環境作りをしています。 新しく入所されてこられた方には特に以前の生活との違いに戸惑われることのないように配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（1Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時はご本人、ご家族とよく話し合い、出来るだけご家族様の思いが反映されるように、そして話し安い雰囲気作りに努め、信頼関係が出来るようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所されてすぐに、ご本人を見極めること、そしてその対応策を捉えることに努めています。 以前リハビリの為に、訪問マッサージをご家族の希望で受け入れていたことがあります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者のADLをしっかり見極めて、食事作りや、洗濯物たみ、食器洗い、掃除など出来る事を出来る方にお願ひしやって頂き、共同生活の場ではあるが、普通の生活が送れるようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族、施設側と何でも話し合える環境に努め、時にはご家族のお力を借りて、行事などを行い、交流を深めていけるようにしています。 ご家族の訪問時間を大切にするように配慮しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の生活の中で、ご本人の生誕地や馴染みの所などを話題として、友人知人の来訪は進んで受け入れています。	・日頃の会話の中から、利用者の馴染みの人や思い出の場所などを探し出し、関係が途切れないよう「個別ケア」で支援している。 ・親戚や友人の来訪時にはゆっくりくつろげるよう配慮し、馴染みの理美容室には職員が送迎している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価（1Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	病状、個性をしっかりと把握し、レクリエーションや、日々の生活の中で、ご利用者同士が協力し、支え合い仲良く過ごしていけるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後いつでも相談に来て下さるようにお話しし、関係が継続している姿勢を表していますが、後日ご挨拶のお電話を頂くという事で終わっています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	サービス計画書作成時には、必ずご本人の意向や要望、不満などを伺っています。そしてご本人のご意向を出来る範囲でそうようにし、難しい状況であればその理由を説明し納得して頂けるようにしています。	・利用者の「今やりたいこと」の実現に力を入れており、家族の情報と毎日のかかわりの中での表情や会話から思いや意向を把握している。 ・把握した思いや意向は、個人ファイルと連絡ノートに記載し職員間で共有しケアに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やケースワーカー、介護支援専門員などから、知りえる範囲の情報を聞き、状況把握に努め、施設内での生活にいかせるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の健康チェック（バイタル測定）、申し送りから、その日の心身状態を把握し、その日のその方の気分や体調に留意し、レクリエーションの実施やのんびり過したりと配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（1Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画書作成・変更時、ご本人の要望はもちろん、解決すべき課題についてよく話し合い、ご本人主体の現状にそくした計画書になるように配慮していると共に、定期的にカンファレンスを開き、現状にそくした支援が出来るようにしています。	・介護計画の作成・変更時には、本人、家族に希望を聞き、職員からは日頃の様子とケアの実情を聞き、必要に応じて医師、看護師の意見を採り入れ介護計画を作成している。 ・介護計画は3か月ごとに見直し、家族の同意を得て実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者一人一人の状況に応じて、必要な場合にはケア記録のほかに個別の記録を作り、実践にそくした対応がとれるようにしています。 またご利用者の状況を見極めて、サービス計画書の変更を実施しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループ（事業所）内で、ご利用者の交流会を実施するなどしています。 またグループホームならではのこまやかな「個別ケア」の実施に力を入れています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の大きな公園へ日常的に散歩やお花見に出掛けています。 地域（町内会）の行事などへの参加も可能な範囲で行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前のかかりつけ医との継続治療を望まれているご利用者にはその関係を続けられるように支援し、新たに事業所の連携医師と関係を結ぶことになったご利用者にも支援し、ご家族と連携医が話し合える機会を設けています。	・本人や家族が希望する医療機関をかかりつけ医としているが、現在全員が協力医をかかりつけ医とし月2回の往診を受けている。 ・訪問歯科の治療と看護師の健康管理を毎週行い、看護師とは24時間連絡体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価（1Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回訪問看護師が来訪時、職員は書面、口頭にてご利用者の状況等を説明し、指示を受けています。 また看護師とご利用者、職員とのコミュニケーションを大切にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院が施設の連携医の勤務先であるので、入院した場合は情報が入りやすい状況にあります。 その為なるべく早い退院を考えられ、施設としても受け入れ態勢を整えやすい環境にあります。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	単身者が多い施設であること、ご利用者の高齢化と共に、終末期を施設でむかえることを希望されることが大半となっています。その中でお受けしかねる状況等は、しっかりとご家族に説明をしています。	・入居時に「重度化した場合の対応に関する指針」を本人と家族に説明し、同意を得ている。 ・重度化した場合は、家族、医師、看護師、職員が連携し意向を確認しながら方針の共有をはかり支援する体制ができており、看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	119番のかけ方や急変時の対応については、消防署のご協力で避難訓練時に実践できるように指導を受けている。また職員には緊急時のマニュアルの配布や、ユニット会議等でホーム長・主任が急変時の対応について話しをしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回、夜間を想定した避難訓練を消防署と地域の方々の参加を頂き実施しています。 緊急時には近隣の方々が駆けつけて下さり、ご利用者を避難させるお手伝いをして下さることになっています。	・消防署の協力と地域住民の参加を得て避難訓練を年2回実施し、いずれも夜間を想定して行っている。 ・利用者は蛍光色のたすきをかけ訓練に参加し、夜間でも利用者の所在が明確になるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価（1Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人一人性格も個性も違うので、職員はご利用者の理解に努め、その時その場面にあった声かけや対応をしています。 虐待についても意識し、対応に努めています。	・職員は利用者一人ひとりの今の状況を全て受け入れ尊重することを心がけ、また、プライバシーを損ねないように利用者の性格や心身状況に応じた言葉かけや対応をしている。 ・不適切な対応があれば管理者はその場で指導し、職員間でもお互いに注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者のご自分の思い希望を訴え、話しやすい環境、関係作りに努め、その中にご利用者自ら自己決定出来るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	協同生活ではありますが、出来る限り一人ひとりのペースを尊重し、どのように生活していきたいかなど、ご本人の意向にそってしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の好みを大切に、その方らしさが保てるように支援しています。 また身だしなみと共に清潔保持にも努めています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と食事作りをしたり、食べたい物をリクエストして頂いたり、外食などで日々の生活に楽しみを作っています。 お願い出来る方には、食器洗いや片付けなどをやってもらっています。	・食べたいものを献立に取り入れ、利用者はできる範囲で下ごしらえや食器拭きを手伝っている。 ・誕生会では外食やバーベキューなどで祝い、日頃は利用者個々のペースに合わせて職員は介助し会話をしながら一緒に食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価（1Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の状況に応じた提供食（刻み、ミキサー食、トロミ）を用意し、状況にそくした対応を心がけ、摂取量や摂取状況の把握に努めています。 定時の食事時間に摂取出来ない、されないご利用者には延食などの対応をとっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1週間に1回訪問歯科が来訪し、ご利用者の口腔内のトラブルの早期発見や嚥下体操などを実施してもらい、また口腔ケアの指示をもらっています。それにそくして毎食後の口腔ケアに職員は努めています。 受診回数は個人の状況やご家族の希望で、ご利用者によって違いがあります。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの排尿パターンや行動状況を把握し、なるべくおむつなどに頼らないように支援をしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・日中は布パンツ・リハビリパンツ使用者がほとんどで自立の利用者が多い。排泄表を活用し、定期的な声掛けと誘導、見守りをしている。 ・夜間はオムツ使用者も数人いるが、自立している利用者の失禁を防ぐため、職員は周囲に気を使いながらトイレ誘導している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便出来るような（薬に頼らない）工夫をしています。 しかし便秘のひどい方は連携医、訪問看護師と連携を図り、薬のコントロールをしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は固定日制にはしていないが団体生活であるので、順番はある程度決まっているが、ご本人の訴え、入りたい入りたくないなどは尊重しています。 感染症のある方については、入浴の順番などを工夫し、予防に努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は原則週2回とし、回数や時間帯は希望に沿うようにしている。 ・入浴を好まない利用者には、日にちや職員を変えたり声掛けを工夫し、さりげなく誘導している。 ・入浴を利用者とゆっくり話せる機会としている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価（1Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜の逆転にはならない程度、昼・夜のメリハリをつけつつ、ご本人のペース、体調にそくした対応をし、夜間の熟睡が出来るよう支援しています。 夜間眠れないご利用者については夜勤の職員が睡眠を促すような対応に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連携医、看護師、薬剤師から、薬の詳しい説明を聞き、ご本人に合った服用時間、形態、量を確認し支援と管理を行っています。 特にご利用者の内服状況を見極めて、錠剤、粉末の薬の形態に注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫煙を職員立会いではありますが認めています。 また協同生活の場で何か自分の出来ることはしていきたい、手伝いたいというご利用者の思いを大切に自立支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出願望の強い方、入所前の生活習慣（自由散歩、自由外出）の継続を希望されるなど、施設としてすべてを実現させることには限界があるものの、ご利用者と話し合い無理のない範囲での希望実現を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・天候や体調に配慮し、近隣の公園や買い物、外食に出かけている。 ・ドライブを兼ねて江の島や大船フラワーセンターなどに車椅子の利用者も一緒に出掛け、帰りにはお茶や外食を楽しんでいる。 ・希望があれば、釣りや墓参り、実家訪問など個別支援も行っている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設管理としていますが、お金を持っていないと落ち着かない方には、ご家族と話し合い、自己管理での所持としています。 また1週間に1回買い物に行く機会を作っているご利用者は、限度額の設定をし、買い物される事の理解を頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（1Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本人がかけたいと希望された時には、出来るように対応しています。手紙についても同様です。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じていただけるよう、心が和むように花を飾ったり、季節に合ったものを作り壁にはるなどし、居心地のよい、施設ではなく家庭を思わせるように努力しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・温・湿度や換気に配慮した明るい居間は、テレビを見る、新聞を読む、将棋やゲームを楽しむ、ソファでくつろぐなど居心地よく過ごせる空間になっている。 ・壁面には行事や遠出の写真と利用者手作りの季節にちなんだ作品が飾られている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダ（ウッドデッキ）があり、日光浴が出来るようになっていました。 また2ユニットなので、フロアの行き来も現在は活発になってきています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のご本人の動線を考えつつ、使い慣れた物の持込みは可能としています。またご家族の写真の飾りつけなど、ご本人、ご家族の希望で居室はご使用願っています。 ただし転倒防止対策はしっかりとらせて頂いています。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室にはエアコンとクローゼットが設置され、利用者は使い慣れた家具やテレビ、仏壇などを持ち込み、好みに応じた配置や装飾などを行っている。 ・掃除、布団干し、衣替えなどは職員が支援している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は居室以外のご利用者が自由に使用しており、その中でご利用者が、カーテンの開け閉めをして下さったり、掃除を手伝って下さったりしています。		

事業所名	サリューブルとつか
ユニット名	2Fユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（2Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に「明るい笑顔、元気な笑顔、優しい笑顔」の理念を全員で復唱し、施設内同様、外出先でも理念をふまえ、実践出来るようにしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの公園散歩時の挨拶、近所のお店や床店などを利用させてもらい、交流を図っています。 また地域（町内会）の祭り、笛堀に参加させて頂いたり、ハロウィンではたくさんの子供たちの来訪を受けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設での夏祭りでは、地域のさまざまな方に来て頂きご協力を得て、また避難訓練では多数の方に参加して頂き、緊急時のご協力が得られるような体制になっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議ではご利用者の近況、活動、事故報告などを行っています。 ご家族や地域関係者からの、ご意見や要望は真摯にお聞きし、早々に取り入れています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は残念ながら密にとれているとは言えない状況です。 地域包括支援センターには、徘徊のあるご利用者の相談をし、ご意見をいただいたりしています。 市町村主催の研修には、出来るだけ参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（2Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外出願望の大変強いご利用者もいますが、日中は施設全体の施錠は行っていません。管理者及び職員は身体拘束をしないケアの研修及びマニュアルを熟読し理解して、ケアを実践しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束ゼロの介護をしています。ユニット会議等でも、拘束や虐待について話し合い、資料を配ったりして、職員が理解し実践出来るように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前ご利用者の中に成年後見人が付いている方がおられたので権利擁護や成年後見人制度の理解はあります。 その際ご家族や成年後見人とは連携を密とし、問題解決等に努めました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の内容を十分に理解されるまで説明していません。詳細な部分と不安や疑問にお答えしてから契約の締結としています。 ご家族が入居に不安なく納得されるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や運営推進会議などで、苦情や要望を伺うように努めて、それを運営やサービス提供に反映させています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（2Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は全職員に対して、年1回の意向調査を実施して意見・要望・提案を聞く機会を設けています。 管理者は、各ユニット会議などで、意見・要望など積極的に取り上げています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、最低でも年1回、あるいは複数回、職員から意見・要望を聞く機会を設けて、働きやすい職場作りを図っています。 就業規則は全職員が、いつでも閲覧出来るように書庫の中に設置しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1ヶ月1回の内部研修への参加や外部研修にも出来る範囲で参加をしています。 またユニット会議を利用しての、実技の指導などに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同社内のグループホームやデイサービス、老健の職員との交流・研修を計画的に行い、サービスの質の向上に努めています。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者がどんなことであっても話しやすく、相談しやすい環境作りをしています。 新しく入所されてこられた方には特に以前の生活との違いに戸惑われることのないように配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（2Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時ご本人、ご家族と十分に話し合い、不安感の軽減に努め、ご意向を伺うなどで、信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の発言や日頃の様子、ご家族の思いを見極めて、何を求められているのかの判断をし、その求められていることを可能な範囲で実現出来るようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者を人生の先輩と自覚し、時には相談相手になって頂いたり、日々の生活の中でお手伝いをして頂き、それらが職員、ご利用者以上の関係を築いていっています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、当施設の行事に参加して頂いています。 またご家族の来訪の際には、ご本人の近況をわかりやすく報告し、ご本人との関係がよい状態であるように支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	生誕地や馴染みのある場所の話しをし、思い出を大切に出来るように配慮しています。 また遠方のご家族には家族レターや電話を利用し、近況報告などに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（2Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	男性のご利用者は特に将棋を楽しまれて過ごし、女性のご利用者は歌を歌ったりして楽しんでいます。 朝、ご利用者と職員全員でラジオ体操を実施しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後いつでも相談に来て下さるようにお話しし、関係が継続している姿勢を表していますが、単身者のご利用者が多いので、継続した関係が続くことはありません。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所前の生活歴や生活状況を把握し、出来るだけご本人のご要望にそうようにしています。 施設として難しい場合は、その理由を説明し、納得して頂けるようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やケースワーカー、介護支援専門員などから、知りえる範囲の情報を聞き、状況把握に努め、施設内での生活にいかせるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の健康チェック（バイタル測定）、申し送りから、その日の心身状態を把握し、その日のその方の気分や体調に留意し、レクリエーションの実施やのんびり過したりと配慮しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（2Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人からご意向などを聞き取り、職員からは日頃の様子、ケアの実情を聞き、ご家族がおられる方には、ご家族のご意向を伺い、より良いサービス計画書の作成に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録を記入し、情報の共有をし、またカンファレンスをこまめに行い、現状にそくしたケアが実施出来るようにしています。 ご利用者の状況を見極めて、適時サービス計画書の変更を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の希望にそった「個別ケア」を計画し、外出や外食などを実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の大きな公園へ日常的に散歩やお花見に出掛けています。 かなり高齢化してきているユニットである為、地域資源を利用した活動的なことはなかなか難しい状況にあります。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどのご利用者がご本人、ご家族の要望で当施設の協力病院の医師の往診・受診を受けています。 入所前からの主治医の継続診療をご希望されている方は、継続に支障がないように配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（2Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回訪問看護師が来訪し、職員は書面、口頭にてご利用者の状況等を説明し、指示を受けています。 また看護師とご利用者、職員とのコミュニケーションを大切にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院が施設の連携医の勤務先であるので、入院した場合は情報が入りやすい状況にあります。 その為なるべく早い退院を考えられ、施設としても受け入れ態勢を整えやすい環境にあります。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族のご意向がまず一番に優先し、連携医、訪問看護師と積極的に話し、ご利用者の方向性を早めに考えるようにしています。 施設での終末期を迎えることを希望されるご家族が多い状況です。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	119番のかけ方や急変時の対応については、消防署のご協力で避難訓練時に実践できるように指導を受けている。また職員には緊急時のマニュアルの配布や、ユニット会議等でホーム長・主任が急変時の対応について話しをしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に消防署のご協力を得て、近隣の方々のご参加も頂き、夜間を想定した避難訓練をし、ご協力いただける体制が出来ています。 また訓練時消防署から、施設として熟知しておきたいことを教えて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（2Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
のの誤算亜					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり違う性格、タイプの方である為、そのご利用者を理解し、職員はその方にあった声かけや対応に心がけています。 特に精神面に大きく変化の表れるご利用者には臨機応変な対応に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の行動や会話の中で、「今やりたい事、行きたい所」などを、自ら表現出来るように工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	かなり高齢化してきたユニットである為、よりご利用者一人ひとりのペースを職員は把握し、ご本人の希望にそった生活が出来るように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとり洋服に拘りがある方も多いため、ご本人にとって着やすい物、好きな物を大切にしています。 整容は職員がほぼお手伝いをしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話の中から、食べたい物を伺い自由メニューの日を設けて、喜んで頂いています。 ご利用者様の得意分野で活躍してもらい、お手伝いをしてもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（2Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の食事摂取の変化を出来るだけ早く察知し、食事形態の変更を図っています。 また連携医や訪問看護師との連携をよくなり、適時指示を得るようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけ、一部介助にて口腔ケアの実施をしています。 週1回訪問歯科の来訪があり、口腔ケアや嚥下体操を行っています。 受診はご利用者の状況、ご家族からの希望で、個々人で違いがあります。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行っています。 ご利用者の現状把握をよくなり、使用物品の検討に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分摂取を促したり、乳製品を使ったデザートを提供など工夫をしています。 しかし便秘のひどい方は連携医、訪問看護師と連携を図り、薬のコントロールをしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は固定日制にはしていませんが、順番はある程度決まっています。 ご本人の訴え、入りたい入りたくないなどは尊重しています。 感染症のある方については、入浴の順番などを工夫し、予防に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（2Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり休む前の過ごし方が違う為、ご本人にあった形で過ごして頂いています。 夜間眠れないご利用者には、夜勤職員が睡眠を促すような対応に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連携医、看護師、薬剤師から、薬の詳しい説明を聞き、ご本人に合った服用時間、形態、量などを確認し支援と管理を行っています。 錠剤、粉末なご利用者の現状にそくせるように注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者のADLを職員は把握し、ご本人が出来るお手伝いをお願いしたり、役割をもって頂いています。 また将棋、散歩、塗り絵、貼り絵、折り紙細工などその方にあった気分転換、時間の過ごし方をして頂いています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と共に食材の買い物のお手伝いで外出しカートを押してもらったり、ご希望の物を購入に出掛けたりしています。 ご家族がおられる方のご家族との外出を支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理させて頂いています。 しかし現金を持っていないと落ち着かれない方については、小額をご自分で管理しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（2Fユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいとご要望があれば職員が介助し、ご家族とお話し出来るように支援しています。 またご利用者が書かれた手紙は家族レターに同封し、ご本人が伝えたい事などを一筆添えて送らせて頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にはご利用者が作ったちぎり絵、四季に合わせた作品を壁に飾り、皆で楽しんでいます。 また行事や外出などの写真も飾り喜ばれています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダ側にソファを置いて日向ぼっこをしたり、会話を楽しんでいます。 以前よりユニット間の行き来が活発になり、ご利用者の交流が深まっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物や家具などを持ってきてもらい、安全に配慮しながら配置を考えています。 またご利用者のADLの変化により、ご家族と話し合い居室内の配置変えるなどしています。 しかし転倒防止対策はしっかりとらせてもらっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器拭き、カーテン開閉、カレンダー変えなどで、役割ややりがいとして、自立支援への工夫をしています。		

